

各地区の実践・研究の取り組みから

北信地区

「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

上高井郡 栗ガ丘小学校 宮寄美代子

1 研究テーマ 「子ども達が、対話的な活動を通じて『読みたい本』と出会い、

読書を楽しみながら、自らの考えを広げ深めていく図書館教育を目指して」

2 公開授業・授業研究

| | 授業者 | 教科・単元名 | 指導者 |
|------------|--------------|---|-----------------------------|
| 1回目 7月 | 5年2組 宮原 徹 | 国語 「図書館をつかいこなそう」 | 北信教育事務所 学校教育課指導主事 目黒哲朗先生 |
| 2回目 12月 | 5年2組 宮原 徹 | 国語 「伝記を読み、自分の生き方について考えよう」 やなせたかしーアンパンマンの勇気 | 北信教育事務所 学校教育課指導主事 目黒哲朗先生 |

3 講演会 中止

4 参加人数 校内45人

5 まとめ

- (1) 「図書館をつかいこなそう」の単元では、図書館の日本十進分類法を理解し、それをもとに今までの自分の読書を振り返って、友だちと対話しながら新しい本と出会う活動をしていった。その後の児童の読書の様子をおって見ると、手にとって読んだことのない分類の本を読んでいる姿が見られた。クラスの友達が自分のために読書の傾向を見て、自分に合いそうな本を薦めてくれたことで、少し難しい本にもチャレンジし、いろいろな分野の本に興味をもって読書を進めている子が増えた。新しい分野の本を読むことで自分の考えを広げたり深めたりするような読書がではじめたようだった。
- (2) 二回目の公開授業では、まず、やなせたかしさんの伝記から、出来事や描かれる人物の相互関係、心情について描写を基に捉え、人物の生き方を理解した。そして、伝記を通して見いだした生き方や考え方について友達と共有していった。単元と同時に伝記を並行読書して「伝記通帳」に感想などを書き残していった。伝記の内容や心ひかれた言葉から自分を振り返り、新たな考えや理想を紹介文に書く姿が見られた。さらに友だちと紹介文を読み合い自己を見つめ直すことにより、授業前と授業後の児童の「生き方」への考え方の変化も見られた。
- (3) 5年2組の子ども達の前年度読書数はクラス平均で66.1冊の貸し出し数であったが、本年度は12月の時点で平均103.2冊であることから子ども達の意識の変化が見られた。図書館に通う子ども達も増え日常的に読書に親しむ姿がある。授業の合間に少しでも読書の時間を作るととても喜ぶ様子が見られる。
- (4) 読書という学習の成果は、なかなか目に見えにくいものであるが、子ども一人ひとりが読書を通じて「豊かな心」を養うために、これからも、全校でじっくり丁寧に継続して指導していきたい。



| クラス平均冊数(昨年度) | クラス平均冊数(今年度12月迄) | 学年平均冊数(今年度12月迄) |
|--------------|------------------|-----------------|
| 66.1冊/年 | 103.2冊 | 69.7冊 |

| 名前 | 今の自分が大切にしている生き方(授業前) | 今後大切にしたい生き方(授業後)〈読んだ伝記〉 |
|-----|-----------------------------|---|
| Nさん | 進撃のマンガをコンプしたい 新しいゲームがほしい | 「人のために積極的に問題点を見つけ解決方法を出せる生き方をしたい。〈レイチェル・カーソン〉 |
| Gさん | なし | ひきょうな生き方はやめて自分の目標に向かっていく生き方。〈真田幸村〉 |

1 研究テーマ 【保健体育科研究（図書館教育）テーマ】

『わかる』と『できる』を結びつけ、自分のもっている運動感覚を仲間に伝えられる力を高める体育指導の在り方（表現するストーリーを図書館の本から選ぶ活動を取り入れた実践）[領域・単元名] 2学年 ダンス領域創作ダンス：「ストーリーとダンス！」

2 保健体育科における図書館教育

これまで、保健体育科の学習の中で、図書館を活用して授業を行う場としては、体育理論の学習や保健分野の学習があった。これらは、レポート作成のための資料収集を、図書館にある本を用いて行うことが主であり、図書館の「学習・情報センター」機能を活用してきた例である。一方で、運動技能の習得のために図書館を活用するということはほとんどなかった。今回は、ダンス領域の学習において、ダンスで表現する主題を「図書館にある本」とし、「読書センター」機能を保健体育の学習に活用することをねらった。このことは、生徒にとって、ダンスの技能の向上に役立つだけでなく、これまでに親しんできた本をさらに身近なものとして感じたり、内容理解を深めたり、これまで読んだことのなかった本に触れる機会を作ったりすることにもつながると考えた。

3 実践内容 【物語の本のストーリーを身体表現する学習の構想】

本校でこれまでに行われてきたダンスの授業を振り返り、ダンスが「イメージを捉えて自己を表現することを楽しさや喜びを味わうことのできる運動」という点に立ち返り、創作ダンスの活動を取り入れた学習活動を構想したいと考えた。

本単元では、表現する主題を、生徒が日常的に慣れ親しんでいる「学校図書館にある物語の本のストーリー」とした。これは、生徒にとって身体を使って表現すべきイメージをもちやすくなると共に、生徒間でイメージの共有が行いやすいと考えたためである。この中で、学習を大きく3段階に分けて、段階的にダンスの創作活動を行った。まず、第1段階として、図書館で選んだ物語のストーリーを「起」「承」「転」「結」の4段構成に分け、あらすじをまとめた。第2段階として、物語のストーリーを演劇やパントマイムの手法を用いて、簡単な身体表現を行う活動を行った。第3段階として、他のグループとダンスを見合いながら身体表現の動きにさらに工夫を重ね、物語のストーリーを表現できるようにしていった。こうすることで、生徒は表したい主題のイメージを明らかにし、イメージを捉えて自己を表現する楽しさを味わうことができると考えた。

4 研究のまとめ

今回、「図書館教育を保健体育科の学習でどのように位置付けられるのか」という視点で授業構想をしてきた。初めは全く授業がイメージできず、「図書館をどのように使えばよいか」と考えていた。しかし、「読書センター機能」、「学習センター機能」、「情報センター機能」という図書館の3つの機能面から教科の学習を考えたときに、様々な活用の可能性があることが見えてきた。特に、保健体育科という一見、図書館とは縁の遠い印象を受ける教科であっても、生徒が日常的に親しんでいる「読書活動」と結びつけられることが分かった。このことは学習指導要領に示されている「教科横断的な学習カリキュラム」にもつながるものであり、様々な教科で身に付けている資質・能力が教科を越えて活用されることで、より深い学びへとつながっていくことが、生徒の姿を通して見えたような気がした。今後、教科性を大切にしながらも、さまざまな学びを通して生徒が身に付けてきた資質・能力を生徒が自ら活用し、生徒自身の手によって問題解決ができる、そんな力を高められる授業実践を行っていきたい。

南信地区

今年度の学校図書館大会は、岡谷市立東部中学校と岡谷市立長地小学校にて行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため、岡谷市学校図書館委員会の先生方と長地小職員のみによる授業研究という形で行われました。

以下は、11月17日（火）に行われた長地小学校の実践報告になります。

図書館教育実践報告

岡谷市立長地小学校 研究主任 中村真佐代

1 研究テーマ

人・もの・ことと関わり、幅広い読書を通して、豊かな学びを育む授業

2 研究授業

総合的な学習の時間 単元名『AKHプロジェクト～遊びでコロナをふっとばせ～』

・授業者 4年1組 篠原 亜未 教諭

【指導者 南信教育事務所 鈴木 伸幸 指導主事】

＜主眼＞『遊びの説明書』の書き方や写真の入れ方、文字の大きさなどを学び、自分たちオリジナルの説明書を作った子どもたちが、お互いに説明書を見合い、アドバイスをし合う場面で、相手に伝わる説明書はどこが工夫されているのか話し合い、自分たちの説明書はどうするか、さらに工夫しようと思えることができる。

3 授業研究会（参観した先生方から）

- ・今までの学習の積み重ねがあり、意欲的に楽しく学べる題材であった。
- ・何冊もの手元の本に付箋がたくさんあり、今まで多くの本で調べたことがよく分かった。
- ・実際に「遊び」を体験してみて、アドバイスをし合っている場面がよかった。
- ・言葉だけではなく、『絵や写真で伝える説明書』になっており工夫されていた。
- ・自分ではよくできていると思っても、相手には伝わりにくいことが分かったようだ。書いて伝えることはなかなか難しいが、そこが良い学習になっていた。。
- ・アドバイスや感じたことを、付箋に書く時間をもっと長くとれるとよかった。
- ・今後の子どもの生活で、多くの仲間遊びを紹介し合うことができる学習内容であった。

4 まとめ

本の活用の仕方にはいろいろ考えられる。今回は、さまざまな分野の本を手にとって調べたことを参考に、自分たちの説明書をより分かりやすくしようと意欲的に考え合っていた。ふだん読むことが少ない分野の本も手にする姿もあり、今後も目的に応じて自らいろいろな本に接し、読書の幅を広げていってほしいと願っている



↑ 互いの班で調べた「遊び方」を紹介し合う場



↑ ここに写真を入れて分かり易くしようよ

7月17日 岡谷市立岡谷東部中学校

学校図書館教育大会に寄せた数学科の実践研究授業を通して

岡谷東部中学校 五味 都佳佐

1 研究テーマ 「本と学習をつなげよう」

2 公開授業

| 会場 | 授業学年・授業者 | 教科・単元名 | 指導者 |
|-------------|------------------|---------------------|------------------------|
| 岡谷東部 中学校 | 中学校3年 片瀬 翔 教諭 | 数学 「平方根」より平方根の利用 | 南信教育事務所 指導主事 板倉新一先生 |

3 参加者人数37人（コロナ感染症対策のため校外参加は市内中学司書教諭に限った。）

4 まとめ

(1) 昨年度の講演から、中学校では授業に図書を活用しやすい教科としにくい教科があることを知り、活用しにくいとされた数学で、図書を利用して学ぶ授業を検討した。

(2) 新型コロナウイルスの拡大に伴い、例年のような図書館大会ではないが、図書館教育の実践研究として校内の全校研修授業を行うことができた。

(3) 数学科で単元の目標とした「授業で習う内容と実生活のつながり」を、図書で黄金比・白銀比の例を示しながら授業を行った。生徒の知っている建物やキャラクターに平方根が使われていることや、A4用紙の縦と横の長さを測るなどのことで、生徒の興味関心に結びついた。

(4) 前時と本時を使って、日常生活の中に平方根が利用されていることを学習できた。

(5) コロナ感染対策のためグループでの話し合いは設定できなかったが、個人追究の中で、分からない部分を相談したり図を書いて説明をしたりする姿が見られた。

(6) 授業研究会では小グループで数学科の出した観点で話し合い、ボードにまとめて掲示しながら発表した。

子どもの学びの姿から、身近な物に平方根が使われている証明と、授業のどこで図書資料を提示したらより興味をひかれたかについて、全体で検討ができた。

(7) 研究授業を通し、授業の学習の目的に応じて様々な本を読む第一歩となった。他教科でも授業での図書利用も進めていけるよう職員との連携を図りたい。



前時で資料にある画像を実際に計測した。



本時は個人追究の時間を多く取った。



「東信地区学校図書館教育研究会にかえて」

佐久支部代表 佐久市立臼田小学校長 仲沢 弘一

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、今年度の東信地区図書館大会は中止となったが、それぞれの学校で実践の積み重ねは続いている。以下にその一部を紹介する。

2 臼田小学校の実践から 単元名「目的に応じて調べ、要約しよう」(4学年：国語科)



第6時 ポブラディアを見ながら考えを巡らせる児童の様子より

図書館にある百科事典に興味をもった子どもたちが、百科事典の特徴や使い方を学んだ後、一人一人要約したい見出し語を選び、短くまとめたり、わかりやすい言葉に置き換えたりしていった。その学習の中で「自分の調べたことを伝えたい」「友だちの調べたことを知りたい」という欲求が生まれ、友だちとの学び合いに向かう姿が見られた。東信教育事務所指導主事川下 高志 先生からもご指導いただき、さらに、必要感と相手意識をもって、調べ、伝えていく学習を構想している。

3 臼田中学校の実践から 題材名「名画に学ぶ～なりきり名画を作ろう」(3学年：美術科)

臨時休校中の課題であった鑑賞レポート学習をさらに発展させ、図書館の図鑑や資料を活用して、作品の動きや心情について考えを深める学習を構想した。第2時では、第1時で行った「最後の晚餐」の鑑賞から感じ取ったことをもとに、その感情が伝わるように、実際に生徒自身が登場人物13人になりきって、実演をしてみた。グループ活動の中で、友と共に協力する楽しさを味わいながら、多様な感性に触れることで、自らの感性に磨きをかけていく生徒たちの姿があった。



第2時『最後の晚餐』になりきろうの様子より

グループ活動の中で、友と共に協力する楽しさを味わいながら、多様な感性に触れることで、自らの感性に磨きをかけていく生徒たちの姿があった。

4 おわりに

私たちには「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」が求められている。これは、簡単なことではない。課題は多い。しかし、一つずつ乗り越えていきたい。その乗り越えるためのエネルギー源の一つは、自校の研究会での学び合いや、他校の実践からの学び合いだったりするのではないだろうか。

(文責 佐久市立臼田小学校 教頭 依田 学)

